この学校では、こんな学びが始まる

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

ＡＩなどを使いこなせる マリン・テック・マネージャーの育成

静岡県立焼津水産高等学校

全日制／水産科

この改革が必要な背景

・静岡県の水産科の県内就職率が約７割、県外進学後のUターン就職率が約３割と低い中、日本有数の水産都市・焼津市では、AI等の最新技術の活用による生産性向上や高付加価値化を実現できる**「現場の変革者」が必要**

・全国でも珍しい**養殖業の許可や、港からの海水を使える実習設備**を備える焼津水産高校の特性を最大限活用

事業概要（学びの変化）

地域基幹産業である水産業の持続的な発展のために

✓ 水産業の発展に必須とされる**「持続可能な養殖」に対し、本校が「日本のモデル」**となることを目指す

✓ 具体的には、市場ニーズに合わせて魚の品種・量・時期を計画生産する**新しい養殖手法の実践**や、**農業高校と共同での飼料開発**（野菜収穫時の廃棄物等を活用）、海洋植物を用いたCO_2削減を実践

✓ 全国の水産教育機関への普及に向け、取組を「標準カリキュラム」として体系化

地元の水産業を担う即戦力人材の育成

✓ 従来の「経験と勘」を脱却し、**養殖に関するデータ解析**や、農業高校と共同で、水産物加工時等の廃棄物を活用した農業肥料開発等を通じて、科学的な知見に基づき論理的に解決策を導き出す能力を育成

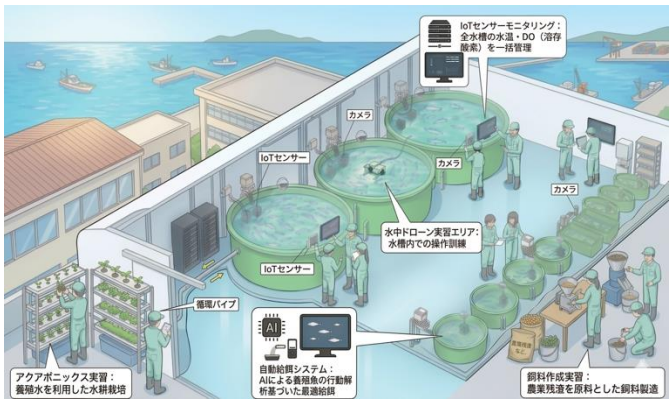
✓ **自動飼料供給システムとAIカメラの活用**により、体重推定、餌やり最適化、寄生虫発生等、**データに基づく生産を実践**

「生産から食卓まで」地域密着型ビジネス教育

✓ 栽培漁業科に加え、海洋科学・食品科学・流通情報の複数学科併設を強みとして、**地元の大手加工食品企業や地元自治体と協力**し、地域産業活性化につながるビジネスモデルを構築

✓ 具体的には、**企業の専門家（技術管理エキスパート）の協力**を得ながら直売所での仕入れから販売促進、対面販売までの一連の体験を通じた学びにより、**消費者ニーズを捉えた「稼ぐ力」や、流通・販売までを俯瞰（ふかん）できるマネジメント能力**を育成

（臨海実習場における海水棟のイメージ）



＜生徒の１日の流れ（例）※栽培漁業科３年Aさん）＞

【8:30】
夜間に集まったデータをもとに、養殖環境を確認

【11:00】
未利用の資源を活用し、魚の成長につながる飼料をつくる

【13:30】
自動飼料供給システムの調整や、水中設備の保守に関する実習

【16:00】
地域企業と、水産業の課題や研究内容について意見交換

高校生の未来の姿（指標の例）

卒業者のうち、漁業分野（養殖業含む）への就職内定者数

（現状） 9人 ⇒ （R10） 15人 ⇒ （R13） 20人

他校への普及方策

・環境保全と経済性を兼ね備えた生産標準モデルの普及
・地域向けイベントを通じた施設開放　など

主な連携機関

はごろもフーズ㈱、地元漁協、焼津市、東海大学ほか

（出典）都道府県の提出書類及び生成AIにより作成した画像をもとに文部科学省において作成